

Olive News

オリーブ 便り



基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

膵臓・胆道センター 市民公開講座を開催しました

香川大学医学部附属病院 膵臓・胆道センター

香川大学医学部附属病院膵臓・胆道センターは、令和6年(2024年)11月24日に「膵がんと早く見つけて治す!」をテーマに、市民公開講座を開催しました。

膵がんは治療が難しい病気とされていますが、近年、早期発見と最新の集学的な治療法によって治癒を目指すことが可能になっています。本講座は、このような膵がん治療の現状を踏まえ、膵がん診療に携わる当センターの各領域の専門医や管理栄養士が、最新の知見をわかりやすく市民の皆さまにお伝えすることを目的として実施しました。

当日は200名を超える参加者をお迎えして、センター長 岡野圭一(消化器外科学教授)が司会を務め、5名の講師が、①早期発見の重要性、②食事・栄養の役割、③術前・術後の治療アプローチ、④ロボット手術の利点、⑤薬物療法の最新情報についてわかりやすく解説しました。

講演の後には、事前に参加者から寄せられたご質問の中から、「膵がんの初期症状」「膵がんと遺伝の関係」など、多くの方が関心を持たれているトピックを取り上げたパネルディスカッションを行いました。これにより、参加者の疑問や関心に直接お答えすることができました。

ご来場いただいた方々は、熱心にメモを取られる姿が目立ち、講師の説明にうなずきながら真剣に耳を傾けておられました。膵がん治療への高い関心を改めて感じるとともに、私たちもこの難治癌の克服を目指して最適な治療を皆様に提供し、その成果や情報を広く発信していく重要性を再認識しました。

今後も、地域の皆さまに貢献できる取り組みを進めてまいります。本講座にご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



香川大学医学部附属病院 膵臓・胆道センター 市民公開講座

膵がんと早く見つけて治す!

令和6年 11/24(日) 14:00~15:30 サンポートホール高松

司会
膵臓・胆道センター長 岡野圭一(消化器外科)

講演
 藤田 英紀(消化器内科) 早く見つけて治す、膵臓がん
 北岡 隼男(臨床栄養部) がん治療、はじめることになったら忘れず栄養相談!
 須藤 広誠(消化器外科) 膵がん手術の最新情報を高める 術前・術後の栄養管理
 大島 稔(消化器外科) からだにやさしい膵がんロボット手術
 奥山 浩之(腫瘍内科) 膵がんにおける薬物療法の最新



当日の市民公開講座の様子は、左のQRコードからアクセスいただいたページでご覧いただけます。

ご退職おめでとうございます

働き方改革を進めつつ質の高い急性期医療システムを作る

救命救急センター センター長 黒田 泰弘



高齢化、人口減少の現況において、医師偏在(地域偏在、診療科偏在、開業偏在)が進み、その上で多くの病院の経営状況が悪化しています。また大学病院において医師の研究に割ける時間は少ない(助教の15%では週5時間)との報告があります。頑張っただけなのに病院が赤字といわれ辛い気持ちの中で、時間を削り出して学会発表・論文執筆している訳です。それでも、わたしは働き方改革を進めつつ質の高い急性期医療システムを作ることが重要と思っていますし、そのためには働いている職員がまずhappyであることが必要であることは言うまでもありません。

香川県は救急搬送の応需(=病院が救急車の受け入れ要請を断る)率が高く、他県に搬送される事例も発生しています。応需が問題になるのは重症よりも中等症・軽症です。県内唯一の大学病院である当院には、県全体の救急医療を俯瞰し全体としてbetterとなるように指導する役割があります。日本救急医学会は、2023年11月24日に「地域救急医療への影響を鑑みた医師の働き方改革に関する提言」*を厚生労働大臣に提出しました。その中に「地域全体で救急医療の質を低下させることなく長時間労働の解消に取り組むためには、救急医療、とくに初期(=軽症)・二次(=中等症)救急診療は医療機関および地域医療圏の全診療科で担うとの認識ととりくみが必要です」と記載しています。

全診療科、全職種の皆様には、どうぞこの学会提言趣旨をご理解いただき、オール大学病院で救急患者をさらに受け入れて速やかに治療して他院に下り搬送させることが県内救急搬送の応需問題の解決につながるの認識を持っていただきたいと思います。いまでもしんどい思いをして自分の時間がないのにさらに多くの救急患者をとるの?と言われると思います。でもこの危機は大学にとってチャンスです。救急患者が増えて研修医や専攻医がそれを診て満足度があがれば研修医が増え、入局者が増え、病院収益もあがり職員の待遇改善、県内病院への医師派遣につながるからです。

さらに県全体の救急医療を俯瞰することはそのまま災害医療につながります。南海トラフ地震において当院は、耐震性も問題なく、高速道路のすぐ横でライフラインの問題もなく、液状化も起こらず、津波もこず、さらに機能が温存できる高松空港が近い、メリットを活かすことができるからです。

最後に、医師、看護師、メディカルスタッフ、事務、病院職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

*https://www.jaam.jp/info/2023/files/info-2023_working_style_reform.pdf

役職定年退職のご挨拶

放射線部 内視鏡診療部 看護師長 高澤 千鶴



早春の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。此度、3月31日をもって役職定年退職となります。

昭和60年に入職して、40年間勤務させていただきました。

今は、多様な生き方、働き方、そして考え方が存在する中で、医療は技術革新が進み、社会状況や環境も変化しています。少子高齢化が進む中で、看護は明るい未来を見据えて人材の確保や育成が課題です。私は、患者さんの療養を支える看護師として看護実践にやりがいを実感して、自分の持つ力を発揮して働くことができたと思っています。

在職中は、すばらしい上司や同僚、後輩たちに巡り合えたことが一番の幸せでした。

先生方をはじめ多職種の皆様にお力添えをいただき、無事に役目を果たすことができました。心より感謝いたします。大変お世話になりました。

これからも、「戻れない昨日より、辿り着きたい明日を目指して」充実した毎日を過ごしていきたいと思っています。

最後になりましたが、今までのご指導ご鞭撻に感謝するとともに、香川大学医学部附属病院のご発展と皆様のご活躍を心よりお祈りいたします。

診療科長の横顔

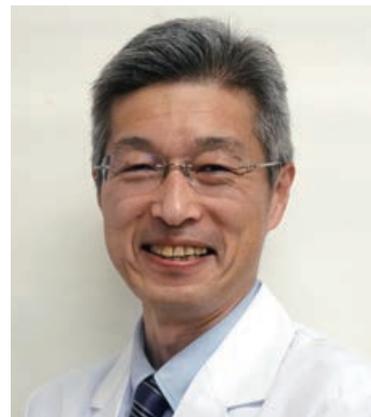
香川大学医学部附属病院 消化器外科 診療科長 岡野 圭一

ポリシー

「患者さん中心の医療」を常に心掛けて診療を行っています。また、消化器外科の領域は日々進化しており、新しい技術や知識を積極的に取り入れることが重要だと考えています。さらに外科医療は「チーム力」が最も重要であり、医療スタッフや連携各科と良好なコミュニケーションを保ち、大学病院として地域の皆様に信頼される最善の医療を提供しています。

診療科紹介

当科は、消化器領域全般にわたる高度な外科医療を提供しています。一般病院では困難な肝胆膵・食道・直腸がんなどの高難度手術を含めた全身麻酔手術を年間500件以上行い、良好な実績を出しています。特にロボット支援下手術を積極的に導入し、患者さんの負担軽減と術後の回復を早める成果を挙げています。また、Acute care surgeryや移植医療にも取り組み、最後の砦としての役割も果たしつつ、次世代の医師の育成にも注力しています。



看護師長の横顔

香川大学医学部附属病院 南病棟5階 看護師長 香西 尚実

ポリシー

「笑う門に福来る」

母が笑ったのは数年ぶりでした。母は、私が誰かもわからなくなり、人の手がないと生きることも難しくなりましたが、母の笑顔は、元気だった頃と全く同じで、頬に丸く浮き出た皺は祖母にもちよっぴり似ていて、この顔に幾度となく励まされ、後押しされてきたのだと思い、嬉しくなりました。笑顔は、ほんのひと時でも人を幸福にしてくれます。苦しい時こそ、そばにいて、笑いをそそれるようになりたいと思っています。

診療科紹介

南病棟5階は、消化器外科33床と共通病床10床からなる病棟です。患者さんは、食べることから排泄するまでの器官に何らかの不具合が生じて入院され、手術や治療により、食事、血糖コントロール、排せつなど、直面される問題は多岐にわたります。今までとは大きく生活を変えなければいけないこともあります。医療スタッフは、患者さんが直面される問題の一つ一つを丁寧に伺い、自立した生活に踏み出せるように、援助を行っています。



患者さんの日常を支える看護を

香川大学医学部附属病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師 重田 宏恵

香川県内のがん看護専門看護師は8名(2024年12月時点)で、多くはがん診療連携拠点病院や看護大学に在籍しています。私は外来で、がんと診断された時、治療選択の時、最期の過ごし方を相談する時など、治療経過の様々な場面で患者さんやご家族に関わらせていただくことが多く、つらい状況の中でも、心安らぎ、ほっと一息つける時間をともに過ごせればと思っています。

また、緩和ケアセンターの一員として、身体や心のつらさを和らげ、患者さんやご家族が治療に臨む力をいかに発揮できるようサポートしています。当院には、入院中の患者さんに対応する緩和ケアチームと、外来患者さんに対応する緩和ケア外来が設置されています。医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・歯科衛生士・心理士・ソーシャルワーカーなど多くの医療スタッフが連携し、お困りごとを軽減できるよう日々活動しています。「痛みが和らいで嬉しい」「久しぶりに庭の手入れができた」など、笑顔で喜びを報告してくださる時間は私の看護の原動力です。

つらさが和らぐと日常を取り戻すことにもつながります。必要な際は、緩和ケア外来・緩和ケアチームへお声がけください。



9のつく日は「くーちゃんの日」!



2024年11月から毎月9のつく平日は「くーちゃんの日」と題して、香川大学医学部附属病院キャラクターの「くーちゃん」が朝、病院の玄関で皆様をお出迎えています。

毎回、個性の異なるくーちゃんが登場しています。

くーちゃんの愛らしさが皆様のお心まで伝わり、明るい気持ちになられる方が増えましたら幸いに思います。

次回の「くーちゃんの日」は3月19日(水)です。



ケーブルTVで放送中



詳しくはこちら



- 3月のテーマ いま注目の特定看護師
～診る力と実践スキルを高めたナースのご紹介～
- 4月のテーマ 早期前立腺がんの低侵襲治療について

イベントカレンダー 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
2025/3/9(日)	12:00~15:00	イオンモール綾川	世界腎臓デイ2025inかがわ	腎臓内科 医療支援課	(087)898-2150

編集委員会 (50音順)

(2024年12月現在)

岡内(外来)、岡野(副病院長)、寒川(総務)、小坂(薬剤)、近藤(医事)、多田(検査)、田中(病棟)、筒井(医療支援)、保科(管理)、森(看護)、門田(放射線)、横井(医療情報)〔委員長 門脇病院長〕